



エネルギーの新しい価値観創造と展開

令和5年度における活動実績・成果の概要

① 「みやぎZEB研究会」主催のZEB建築物現地見学会&座談会の実施

本学の学際研究重点拠点である「エネルギー価値学創生研究推進拠点（拠点長 土屋範芳 教授）」が主管している「みやぎZEB研究会」による、宮城県内におけるZEB建築物の現地見学会並びに座談会を1回行った（図1）。なお本事業は、宮城県環境生活部主管の「みやぎ地中熱利用研究会」との連携事業でもある。

- ・現地見学会&座談会（令和5年1月25日）塚田電気工事株式会社新社屋（仙台市青葉区）

上記の建物は、環境科学研究科が所有する、東北地方で初めての『ZEB』でもあるエコラボのコンセプトが継承されており、現地見学会&座談会を通じて、本学発の脱炭素に関する技術や理念が社会実装されていることを内外に示す良い機会となった。参加者数は45名であり、宮城県内の建設・設備会社や各自治体職員、環境省東北地方環境事務所など多くの方が参加され、参加者からは高い評価を得た。

② 「東北大学エネルギーシンポジウム」の開催

令和5年10月2日に、“東北大学が描くGX ～エネルギー価値学が導く持続可能な未来への成長戦略～”を副題として東北大学エネルギーシンポジウムを、環境科学研究科とグリーン未来創造機構との連携で開催した（図2）。今年のシンポジウムでは、地域や民間から始まる脱炭素・水素利活用による強靱な社会の実現、環境と経済の好循環の実現について、大学における最新の研究成果や民間企業の脱炭素計画などについて紹介した。当日は対面開催とし、80名の方々にご参加いただき盛況であった。

③ 仙台市、脱炭素先行地域に採択され、本学も共同提案者として参加

仙台市は令和5年度に環境省主管の「脱炭素先行地域」に採択され、本学も共同提案者として参加している（図3）。その応募に際して、大庭特任准教授が委員となり、助言を行うなど、深く関わった。本学の役割は、①全体の取組に係る効果検証及び計画期間中の取組による効果の最大化に向けた提言・情報提供等を行うこと、②ビルのZEB改修や太陽光リユースパネル実証事業、市民の行動変容、エネルギーマネジメントなど各取組の効果的な運用や市民の脱炭素行動の更なる実践に向けた提言等を行うこととなっている。そこで環境科学研究科は、地域の脱炭素プロジェクト支援のさらなる強化のため、地域脱炭素支援室を新たに設置した。

図1 ZEB建築物現地見学会&座談会



図2 東北大学エネルギーシンポジウム



図3 仙台市脱炭素先行地域

